

教育センターとしての中期的目標（R5～R8 年度）

「新たな教師の学びの姿」（自律的な学び）の実現と
多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成

教職員の「主体的な学び」を推進する研修体制の構築

学校組織力の向上のための人材育成・指導力向上に向けた支援

令和 6 年度の主な取組み

- ① 自律的な学びの実現に向けた学校への研修情報の提供
 - 年度当初だけでなく、随時、広報しながら申込可能とした
 - △ 受講したいと思う広報だったか（研修の魅力の伝え方は？）
- ② 受講者を主語にした、対話を取り入れた研修デザイン
 - 他者や自分自身と対話する場を位置づけた
 - △ 学びの継続性（実践や次の学びにつながる研修とは？）
- ③ 特別支援教育に関する研修の充実
 - 障がい種ごとに理論的もしくは実践的な研修を実施した
 - △ 携わろうとする教職員を増やす必要性（意識を高めるためには？）
 - △ 初任者研修 3 年次の充実（実習を含めた継続的な学びの在り方は？）

- ① アウトプット中心の校内研修の推進および学校への支援
 - 協力校を中心に、好事例が増えてきている
 - 各校の研修担当者を対象にアウトプットを軸にデザインした研修を実施し、そのよさを自らが体感する場を設定できた
 - △ 意識や取組みの変容には学校間で差が見られる
（多くの学校に広げるには？）
 - △ 授業研究や協議会が参観者の学びの深まりにつながっていないケースもある
（日頃の実践につなげるには？）

令和 7 年度の方角性

- ① 学ぶ意欲を引き出す広報の工夫
- ② 学びの継続をうながす研修方法の工夫

- ① アウトプット中心の校内研修の定着に向けた支援

協議内容

- （１）多くの教職員に「学ぶ愉しさを実感してもらえる研修講座」の在り方（広報の仕方や研修方法）
- （２）教職員が「主体的に参加でき、学びの深まりにつながる校内研修支援」の在り方